

7月の広布史クイズ

第1問

7.11は男子部結成記念日です。結成式の席上、第二代会長戸田先生は、「きょう、ここに集まれた諸君のなかから、必ずや●●●があらわれるであろう」と語られました。

●●●にはどんな言葉が入るでしょうか？

男子部結成記念日7.11



選択肢

- ① じ ゆ ぼ さつ 地涌の菩薩
- ② 次の創価学会会長
- ③ とう し 広宣流布の闘士

7月の広布史クイズ

第1問

7.11は男子部結成記念日です。結成式の席上、第二代会長戸田先生は、「きょう、ここに集まられた諸君のなかから、必ずや●●●があらわれるであろう」と語られました。

●●●にはどんな言葉が入るでしょうか？

- ①地涌じゆの菩薩ぼさつ
- ②次の創価学会会長
- ③広宣流布とうしの闘士

(正解) ②次の創価学会会長

(解説)

7月は男女青年部が結成された月です。

1951年(昭和26年)5月3日に創価学会第二代会長に就任した戸田先生は、「広布の全責任を担う組織」として、同年7月に青年部を結成しました。7月11日に男子部は結成され、戸田先生は結成式で「きょう、ここに集まられた諸君のなかから、必ずや次の創価学会会長があらわれるであろう」と語りました。

戸田先生の胸中には、会長就任に至る苦闘を共に乗り越え、渾身の薫陶こんしん くんとうを受け続けていた池田大作青年の姿がありました。

会場の一角にいた池田先生は、師匠まいしんの青年への期待を、若き生命に刻み、その後の広宣流布の大拡大へと邁進していきます。

男子部結成記念日 7.11



7月の広布史クイズ

第2問

7.19は女子部結成記念日です。結成式の席上、第二代会長戸田先生は「学会の女子部は、一人のこらず幸福になるんですよ」と励ました上で、幸福境涯を開くために「●●●に生き抜く」ことを訴えられました。
●●●にはどんな言葉が入るでしょうか？

女子部結成記念日 7.19



選択肢

- ① 信行学の基本
- ② 教学を根本
- ③ 純粹な強い信心

7月の広布史クイズ

第2問

7.19は女子部結成記念日です。結成式の席上、第二代会長戸田先生は「学会の女子部は、一人のこらず幸福になるんですよ」と励ました上で、幸福境涯を開くために「●●●に生き抜く」ことを訴えられました。

●●●にはどんな言葉が入るでしょうか？

- ① 信行学の基本
- ② 教学を根本
- ③ 純粹な強い信心

(正解) ③ 純粹な強い信心

(解説)

男子部結成に次いで、女子部が結成されたのは、1951年(昭和26年)の7月19日です。この日、旧学会本部で行われた女子部結成式の席上、戸田先生は新たな誓いを胸に集まった女子部員に対して、「学会の女子部は、一人のこらず幸福になるんですよ」と慈愛の^{じあい}励ましを贈り、幸福境涯を開くために、「純粹な、強い信心に生き抜く」ことを訴え、女子部の前途を祝福しました。

結成の翌年には、華陽会が^{かよう}結成され、新時代の女性のリーダーを薰陶していきます。

今、女子部では池田華陽会が^{だいどう}結成され、幸福勝利の大道を、^{はな}華のごとく、太陽のごとく歩んでいます。

女子部結成記念日 7.19



7月の広布史クイズ

第3問

青年部が結成された後、戸田先生は「班長に告ぐ」という一文を発表しました。それは「新しき世紀を創るものは、青年の熱と力である」との一節から始まり、「●●●!青年諸氏よ!●●●!青年諸氏よ!」と烈々^{れつれつ}と青年部に呼びかけるものでした。戸田先生は青年にどのように呼びかけたでしょうか?



選択肢

- ①「奮起^{ふんき}せよ! 青年諸氏よ!
戦おうではないか! 青年諸氏よ!」
- ②「立ち上がれ! 青年諸氏よ!
いざ征^ゆかん! 青年諸氏よ!」
- ③「情熱を持って! 青年諸氏よ!
力をつけよ! 青年諸氏よ!」

7月の広布史クイズ

第3問

青年部が結成された後、戸田先生は「班長に告ぐ」という一文を発表しました。それは「新しき世紀を創るものは、青年の熱と力である」との一節から始まり、「●●●! 青年諸氏よ! ●●●! 青年諸氏よ!」と烈々と青年部に呼びかけるものでした。戸田先生は青年にどのように呼びかけたでしょうか?

- ①「奮起せよ! 青年諸氏よ! 戦おうではないか! 青年諸氏よ!」
- ②「立ち上がれ! 青年諸氏よ! いざ征かん! 青年諸氏よ!」
- ③「情熱を持って! 青年諸氏よ! 力をつけよ! 青年諸氏よ!」

(正解) ①「奮起せよ! 青年諸氏よ! 戦おうではないか! 青年諸氏よ!」

(解説)

戸田先生は青年部結成の後に、「班長に告ぐ」と題した一文を発表しました。のちに「青年訓」と呼ばれるこの一文は、「新しき世紀を創るものは、青年の熱と力である」との一節から始まります。そして「奮起せよ! 青年諸氏よ! 戦おうではないか! 青年諸氏よ!」との戸田先生の烈々たる呼びかけに、池田青年が結果をもって応えます。

池田先生は、青年部の班長、部隊長、やがては全責任を担う室長として、あらゆる戦いに勝利し、戸田先生の誓願であった75万世帯の弘教達成への突破口を開いていきました。

広布の一切の責任を担い、広布拡大の先駆を切る青年部の伝統は、若き日の池田先生の師弟不二の闘争により築かれたものなのです。



7月の広布史クイズ

第4問

7月の広布史として歴史に刻まれているのが昭和32年の権力との闘争です。7月3日、池田先生は権力による不当逮捕を受け、7月17日に出所し、その後、84回にわたる法廷闘争の末、晴れて無罪判決を勝ち取ります。無罪判決の日までどれくらいの期間がかかったでしょうか？



選択肢

- ① 半年間
- ② 2年半
- ③ 4年半

7月の広布史クイズ

第4問

7月の広布史として歴史に刻まれているのが昭和32年の権力との闘争です。7月3日、池田先生は権力による不当逮捕を受け、7月17日に出所し、その後、84回にわたる法廷闘争の末、晴れて無罪判決を勝ち取ります。無罪判決の日までどれくらいの期間がかかったでしょうか？

- ①半年間
- ②2年半
- ③4年半

(正解) ③4年半

(解説)

1957年(昭和32年)の7月3日、学会勢力の台頭を恐れた当時の検察権力により、池田先生(当時、青年室長)が不当に逮捕、勾留された「大阪事件」が起きました。過酷な取り調べに対し、池田先生は無実を主張しました。しかし、検察権力は「罪を認めなければ、次は戸田会長を逮捕する」と脅迫します。

「衰弱した戸田先生を投獄させるようなことがあってはならない」と、戸田先生と学会を守るために、池田先生はいったんは罪を認め、法廷闘争で無実を証明することを決意します。

そして7月17日に大阪拘置所を出所しました。この日、中之島の大阪市中央公会堂では、歴史的な「大阪大会」が開かれ、池田先生は烈火のごとく叫びました。「最後は、信心しきったものが、また、正しい仏法が、必ず勝つという信念でやろうではありませんか!」と。

その後、84回に及ぶ法廷闘争を戦い抜き、晴れて無罪判決を勝ち取ったのは、4年半後の1962年(昭和37年)の1月25日のことでした。この無罪判決により、学会の正義が満天下に示されたのです。

